

様々な機能を活用してみましょう

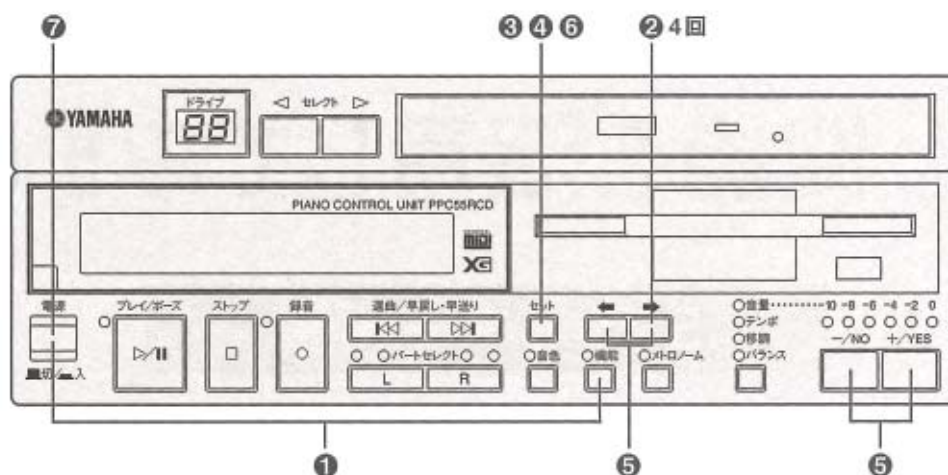
5：タイマー再生

この章では、タイマー再生の使い方をご紹介します。
タイマー再生では、好みの時間に、複数のメモリディスクの曲を
連続して自動再生できます。様々なシーンでご活用ください。

- タイマーの時計を合わせる(カレンダー機能).....P136
- タイマー再生する曲順をセットする(グループ機能/チェインプレイ機能).....P138
- 好きな時間に自動演奏をスタートさせる(タイマープレイ機能).....P140
- 電源オンと同時に自動演奏をスタートさせる(オートスタート).....P142
- 何分かおきに1曲ずつ順番に自動演奏させたり、1曲だけで再生をストップさせる(スペースプレイ).....P143

タイマーの時計を合わせる

■カレンダー機能



- タイマー再生機能を利用するために、本機に内蔵されているカレンダー(年・月・日/時・分・秒)を合わせます。
- カレンダーを設定すると、画面の右上に時間を表示します。
(午後6時30分の表示例)



- カレンダーは「2084年12月31日・23時59分59秒」まで設定できます。
- 時計は24時間表示です。
- 秒まで正確に合わせるには、テレビの時刻表示や電話の時報サービス等をご利用になると便利です。

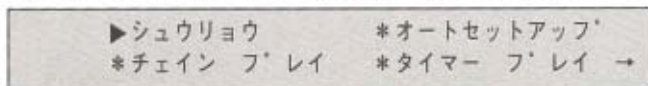


- 本機のカレンダーには専用電池は必要ありません。
- 設定したカレンダーは電源を切っても記憶されます。ただし、設定後約1カ月本機を使用しなかった(電源を入れなかった)場合は、時間表示なくなります。
- カレンダーを正常に動作させ続けるためには、約1カ月に1回、10分以上本機に電源を供給するようにしてください。
- 設定後、本機に電源を入れずに1カ月以上経過し、カレンダーが無効になった場合は、再度設定し直してください。

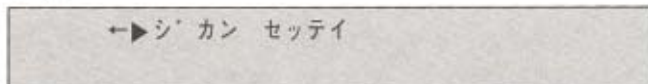


- 電源を切った状態から操作します。

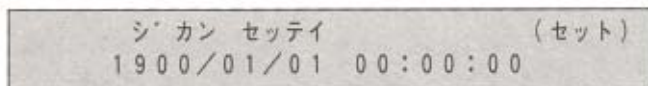
- ① [機能ボタン]を押しながら、[電源スイッチ]を押します。



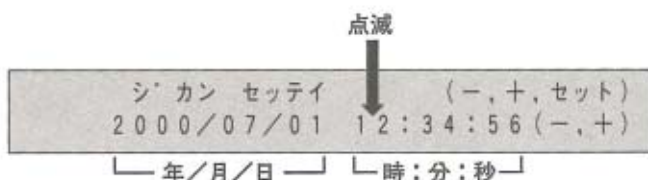
- ② [カーソルボタン⇐⇒]を4回押し、下の画面を表示させます。



- ③ [セットボタン]を押します。



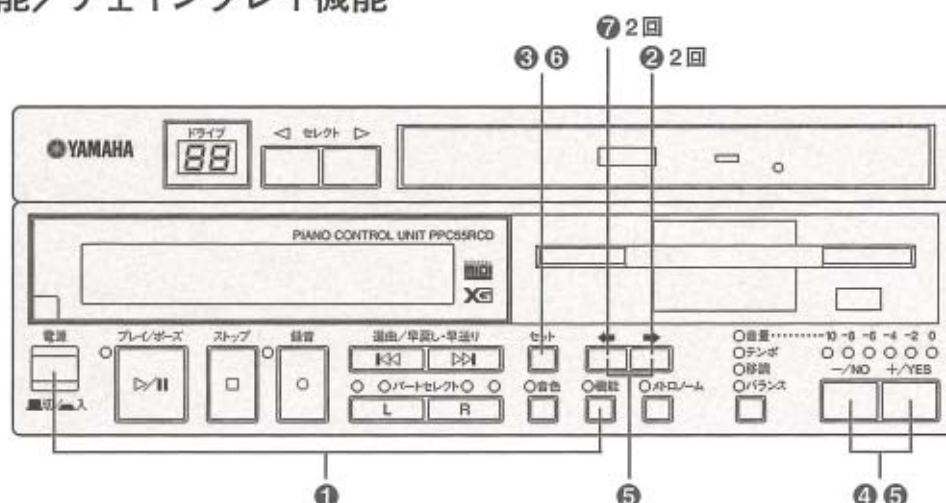
- ④ [セットボタン]をもう1回押します。



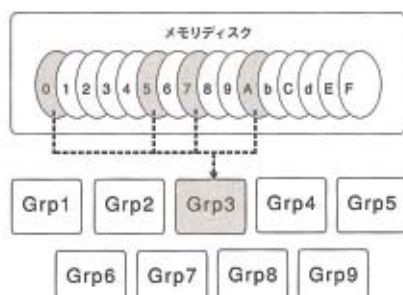
-
- ⑤ [カーソルボタン< / >]を押して、
「年／月／日」「時:分:秒」を選び(選ぶと点滅)、
[－ / NOボタン][＋ / YESボタン]を押して数字を設定
します。
 - ⑥ [セットボタン]を押すとカレンダーが設定されます。
秒まで正確に合わせるには、テレビの時刻表示や電話の
時報サービス等に合わせて[セットボタン]を押してくだ
さい。
 - ⑦ カレンダーの設定が終わったら、電源を切ります。
※他の機能を続けて使用したい時も、一旦電源を切ってください。

複数のメモリディスクを連続再生する(タイマー再生する曲順をセットする)

■グループ機能/チェインプレイ機能



- 「グループ」とは、複数のメモリディスクの再生順を登録したもので、「グループ」は9個まで作ることができます(下図参照)。グループの登録はメモリディスク単位です。曲単位での登録はできません。
- 「チェインプレイ」とは複数のメモリディスクを連続して再生できる機能です。



- ここで設定したグループは、タイマー再生にそのまま利用することができます(P140参照)。



- メモリディスクに曲が記録されていないとグループに使用することはできません。
- フロッピーやCDの曲をグループに含むことはできません。グループに使用できるのはメモリディスクのみです。
- リセット(P34)をおこなうまで設定は有効です。
- フロッピーやCDが挿入されていても、メモリディスクのグループ登録はできます。



- グループを登録する方法
- 電源を切った状態から操作します。

- ① [機能ボタン]を押しながら、[電源スイッチ]を押します。

▶ シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ② [カーソルボタン⇐⇒]を2回押し、「▶チェインプレイ」と表示させます。

*シュウリョウ *オートセットアップ*
▶ チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ③ [セットボタン]を押すと、
下のようなグループ設定画面が表示されます。

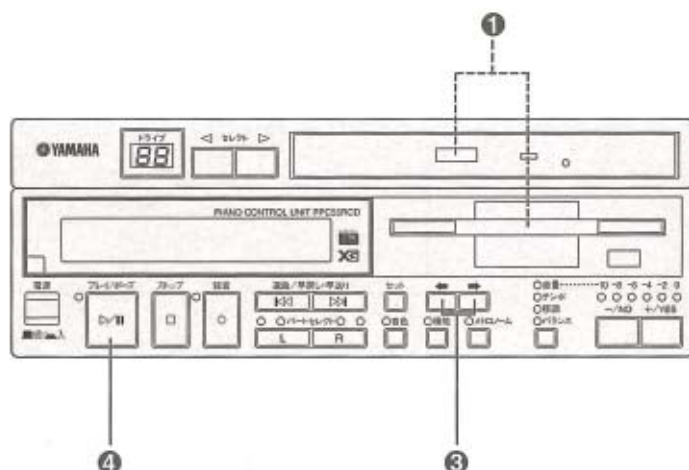
メモリディスク チェイン フレイ
▶ Grp 1] 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
グループ番号 メモリディスク(0~9, A~F)

[グループ登録の例]

- グループ番号3に0/5/7/Aのメモリディスクを登録(左図参照)。
以下、上記の例にそって説明します。

- ④ [ー/NOボタン][+/YESボタン]を押してグループ番号(Grp 1~9)を選びます。ここでは3番を選択。

メモリディスク チェイン フレイ
▶ Grp 3] 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F

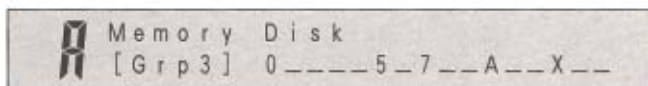


- ⑤ [カーソルボタン< / >]を押してメモリディスクを選び(点滅)、[一 / NOボタン][+ / YESボタン]でグループに含むかどうかを指定します。

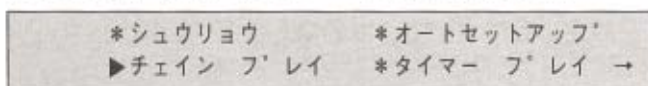
※グループに含む場合はメモリディスクの番号(0~9、A~F)を表示させます。

※「_」はグループに含まないメモリディスクです。

※「X」は曲が記録されていないメモリディスクです。



- ⑥ [セットボタン]を押すとグループが登録されます。

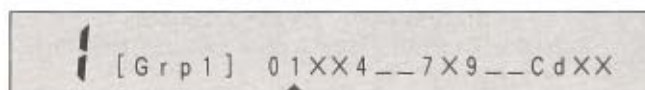


- ⑦ [カーソルボタン< / >]を2回押して「▶シュウリョウ」と表示させ、[セットボタン]を押します。これでグループの登録の操作は終了です。



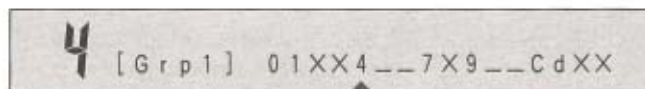
●グループを再生(チェーン再生)するには

- ① フロッピーやCDを入れてある場合は、取り出してください。フロッピーやCDが入っているとチェーン再生ができません。
- ② 再生したいグループを選びます(P138-139の①~⑤の操作)。



点滅

- ③ どのメモリディスクから演奏を始めるかを[カーソルボタン< / >]を押して指定します(点滅)。

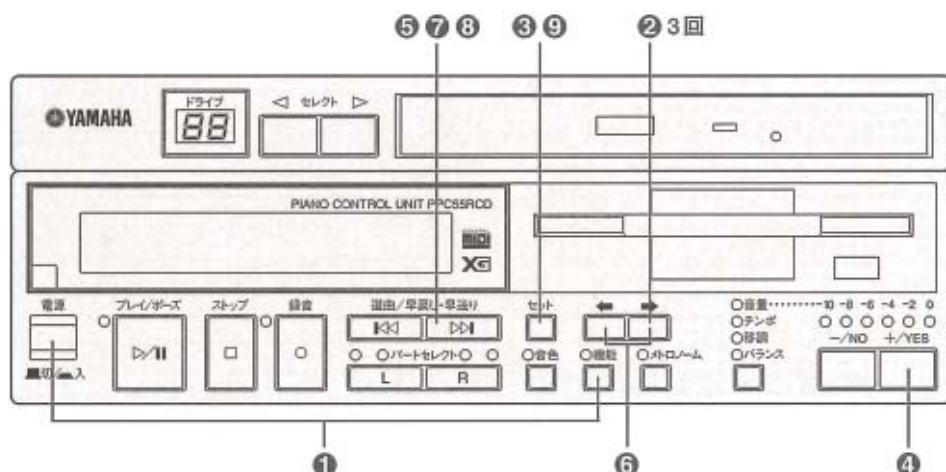


点滅

- ④ [プレイ/ポーズボタン]を押すとチェーン再生がスタートします。最後まで再生すると、チェーン再生は終了します。
※グループ内の各メモリディスクの再生順は設定できません。

好きな時間に自動演奏をスタートさせる

■タイマープレイ機能



●P138-139で登録した「グループ」を、好きな時間に自動的に再生を始めたり、終了させることができます。



- タイマーの動作に関する設定は、「タイマープレイプログラム」として最大99個まで本体に記憶できます。
- 1個の「タイマープレイプログラム」には「何時何分にどのグループを再生(終了)するか」といった内容が設定できます。このため、「8時00分にグループ1を再生開始/9時00分にグループ1を終了/10時にグループ2で再生再開…」といった設定も可能です。
- タイマー再生にあたっては、「グループ」を登録する必要があります。グループの登録の操作は、P138-139「複数のメモリディスクを連続再生するには」をご参照ください。

■タイマープレイプログラムの設定項目

①タイマースイッチ	ON=タイマープレイON、OFF=タイマープレイOFF
②ナラヒカエ	ここにカーソルを移動し[セットボタン]を押すとプログラムの順番が時間順に並び替わります。
③プログラム番号	タイマープレイプログラムの番号です。01~99まで99個のプログラムが登録できます。
④時間	プログラムごとに再生を開始/終了する時間を設定します。時間は24時間表示です。
⑤再生/終了	⑥で選んだグループを再生(終了)する時間を設定します。 PLAY=再生開始、STOP=再生終了
⑥グループ	グループ(Grp1~9)を選びます。



- あらかじめカレンダーの設定が必要です(P136参照)。
- タイマープレイ機能は本機の電源ON/OFFの動作はプログラムできません。設定した再生開始時間になる前に、手動で電源を入れるか、市販のタイマーと組み合わせてご使用ください(右頁参照)。
- 開始時間を過ぎてから電源を入れた場合は、電源投入時以降の設定のみ有効となります。また終了時間の前に電源を切ると、以降の設定は無効になります。
- メモリディスクに曲が記録されていないとグループに使用することはできません。
- 登録されていないグループの番号は1~9まで表示されます。
- フロッピーやCDの曲をグループに含むことはできません。グループに使用できるのはメモリディスクのみです。
- 一度設定するとリセット(P34)するまで有効です。



- タイマープレイプログラムの設定方法
- 電源を切った状態から操作します。

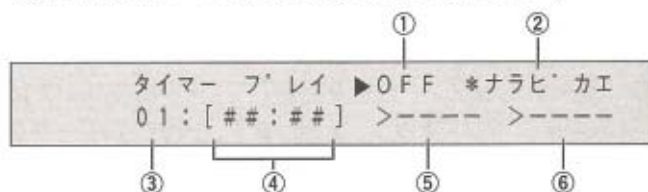
① [機能ボタン]を押しながら、[電源スイッチ]を押します。

▶シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フ'レイ *タイマー フ'レイ →

② [カーソルボタン<=>]を3回押し、「▶タイマープレイ」と表示させます。

*シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フ'レイ ▶タイマー フ'レイ →

③ [セットボタン]を押すと、
タイマープレイプログラムの設定画面が表示されます。
設定項目については左の表を参照してください。



④ [+ / YESボタン]を押して、「▶ON」と表示させます。

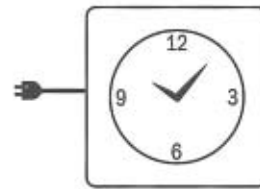
タイマー フ'レイ ▶ON *ナラヒ'カエ
01: [##:##] >----- >-----



- タイマープレイでは、あるプログラムの再生時間が長く次のプログラムの「PLAY」までに終了しない場合や、スペースプレイがセットされている場合は、実行中のプログラムが優先して再生されます。

●市販のタイマーとの組合せ例

市販タイマーは、設定した再生開始時間よりも前にセットしておきます。



市販タイマー



本機の主電源とコントロールユニットの電源はONにしておきます。

[プログラムの設定の例]

●プログラム番号1:

午前8時00分にグループ1を再生開始

●プログラム番号2:

午後2時30分にグループ5を再生開始

●プログラム番号3:午後9時00分に終了

以下、上記の例にそって説明します。

- ⑤ 右向き[選曲/早戻し・早送りボタン]を押します。
(プログラム番号の選択は[選曲/早戻し・早送りボタン]でおこないます)

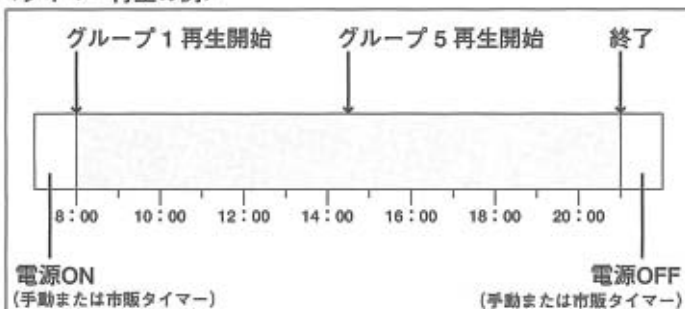
タイマー フレイ =ON *ナラヒ カエ
01:[##:##] ▶----->-----

- ⑥ [カーソルボタン< / >]で、時間、再生/終了、グループの各項目を指定し(点滅)、
[一/NOボタン][+/YESボタン]を押して各項目を設定します。

タイマー フレイ =ON *ナラヒ カエ
01:[08:00] >PLAY ▶Grp1

※プログラム番号1:午前8時00分にグループ1を再生開始

＜タイマー再生の例＞



- ⑦ 右向き[選曲/早戻し・早送りボタン]を押して
プログラム番号2を選び、⑥と同じ操作で
時間、再生/終了、グループの各項目を設定します。

01:[08:00] >PLAY >Grp1
02:[14:30] >PLAY Grp5

※プログラム番号2:午後2時30分にグループ5を再生開始

- ⑧ 右向き[選曲/早戻し・早送りボタン]を押して
プログラム番号3を選び、⑥と同じ操作で
時間、再生/終了、グループの各項目を設定します。

02:[14:30] >PLAY >Grp5
03:[21:00] ▶STOP >####

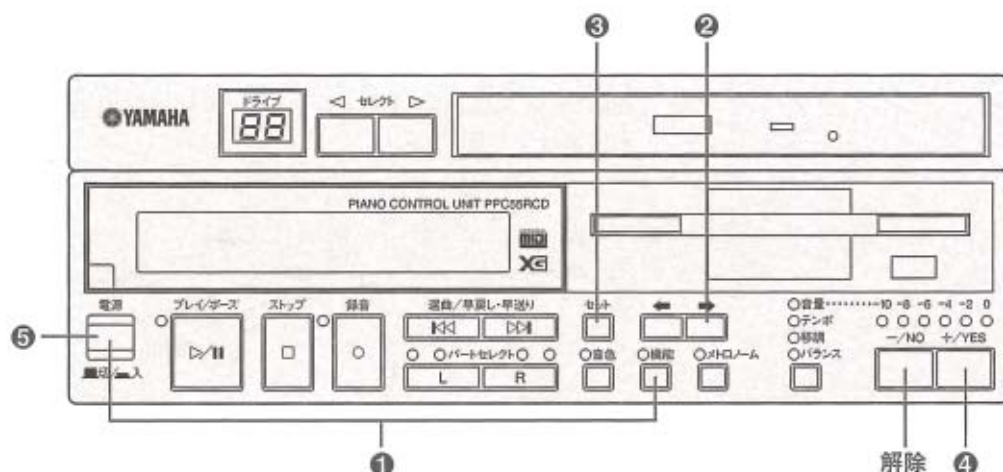
※プログラム番号3:午後9時00分に終了

- ⑨ 以上で設定は終了です。
[カーソルボタン<]を2回押して「▶シュウリョウ」と表示させ、[セットボタン]を押して電源を切ります。

▶シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

電源オンと同時に自動演奏をスタートさせる

■オートスタート



- 電源オンと同時に再生をスタートさせる機能です。全曲を演奏し終わると、自動的にストップします。
- フロッピーやCDが入っていないと、メモリディスク(前回電源を切った時に選択されていたメモリディスク)の曲がオートスタートします。
- フロッピーまたはCDの曲を再生させる場合は、あらかじめフロッピーまたはCDを入れておきます。
- 電源ONの後フロッピーまたはCDを挿入すると、フロッピー／CDの曲がオートスタートします。
- フロッピー／CDの両方が挿入されている場合は、フロッピーの曲がオートスタートします。



- 「スペースプレイ機能」(P143)と組み合わせて活用できます。
- 「タイマープレイ機能」(P140)と組み合わせて使うことはできません。
- 他の機能は通常どおり使用できます。
- 市販のタイマーとの組み合わせで、使い方が広がります。



- オートスタートをやめるには解除の操作が必要です。
- 音量・バランス等の設定はコントロールパネルの電源スイッチを切った時の設定が記憶されます。タイマーで電源を切った時の値は記憶されません。
- 主電源は入れた状態にしておきます。



- ① [機能ボタン]を押しながら、[電源スイッチ]を押します。

▶シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ② [カーソルボタン⇐⇒]を押し、「▶オートセットアップ」と表示させます。

シュウリョウ ▶オートセットアップ
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ③ [セットボタン]を押します。

▶オート スタート =OFF (←, →, セット)
>スヘース フレイ=OFF (←, +)

- ④ [+ / YESボタン]を押して、「オートスタート=ON」と表示させます。

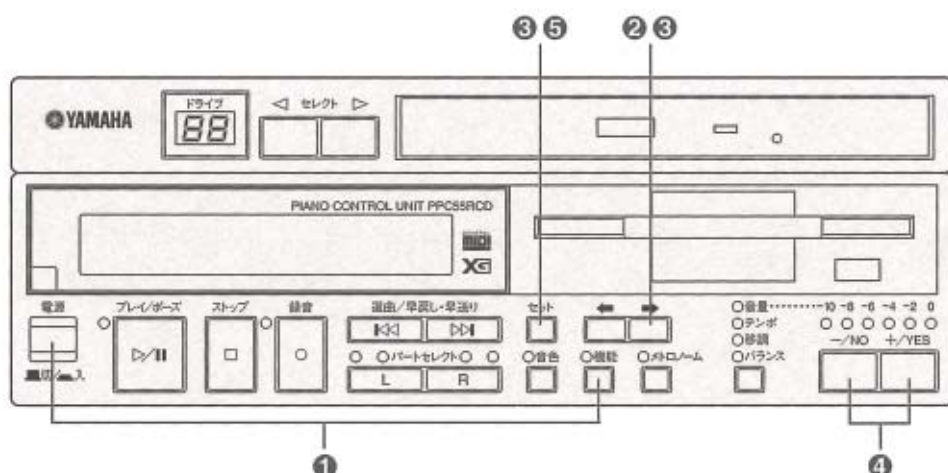
▶オート スタート =ON (←, →, セット)
>スヘース フレイ=OFF (←, +)

- ⑤ 電源を切ると設定は完了します。

- オートスタートの設定を解除するには、④の画面で「- / NOボタン」を押し、「オートスタート=OFF」と表示させてから電源を切ります。

何分かおきに1曲ずつ順番に自動演奏させたり、1曲だけで再生をストップさせる

■スペースプレイ機能



- [プレイ/ポーズボタン]を押すと、設定した間隔(スペースタイム)において「1曲目→2曲目→3曲目→」と連続して再生する機能です。
- 全曲を演奏し終わると、自動的にストップします。
- スペースタイムの設定範囲＝001～300min(1分単位)/STOP(1曲だけ再生して停止します)
- スペースタイムは、ある曲の開始から次の曲の開始までの時間です。したがって設定したスペースタイムよりも演奏時間の長い曲の場合は途中で切れ、次の曲の演奏が始まります。
- STOPは、選曲された曲の再生終了後、次の曲の再生に移行せずに停止させる機能です。
- 通常の経過時間や小節/拍は表示されず、スペースタイムの残り時間が表示されます。



- フロッピーやCDが入っていないと、メモリディスク(前回電源を切った時に選択されていたメモリディスク)の曲が再生されます。
- フロッピーまたはCDの曲を再生させる場合は、あらかじめフロッピーまたはCDを入れておきます。
- フロッピー/CDの両方が挿入されている場合は、フロッピーの曲が再生されます。
- 「オートスタート機能」(P142)と組み合わせて活用できます。
- 「タイマープレイ機能」(P140)と組み合わせて使うことはできません。
- スペースプレイ中に、早戻し・早送り、ポーズ、ストップを行うと、スペースタイムは無視されます。ただし再生中にリモコンで選曲した場合は、次の曲からスペースプレイを再開します。その他の機能は通常どおり使用できます。



- スペースプレイをやめるには、解除の操作が必要です。



●スペースプレイの設定

- ① [機能ボタン]を押しながら、[電源スイッチ]を押します。

▶ シュウリョウ *オートセットアップ*
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ② [カーソルボタン<=>]を押し、「▶オートセットアップ」と表示させます。

シュウリョウ ▶オートセットアップ
*チェイン フレイ *タイマー フレイ →

- ③ [セットボタン]を押してから、[カーソルボタン<=>]を押します。

>オート スタート =OFF(←, →, セット)
▶スヘー ス フレイ=001min (←, +)

↑
スペースタイム(分)

- ④ [+ / YESボタン] [- / NOボタン]を押して、スペースタイムを設定します。

- ⑤ [セットボタン]を押すか電源を切れば設定完了です。

- スペースプレイの設定を解除するには、④の画面で「- / NOボタン」押し、「スペースプレイ=OFF」と表示させてから電源を切ります。



●スペースプレイの再生

- [プレイ/ポーズボタン]を押すとスペースプレイが始まります。

スペースタイムの残り時間

01 ○○○○
<S=005>
■■ ES XG

様々な機能を活用してみましょう

6：MIDI楽器やパソコンとの接続

この章では、他のMIDI楽器やパソコンとの接続の方法や楽しみ方、さらにはMIDIを利用する際の様々な機能の設定についてご紹介しています。MIDI楽器やパソコンとつないで、ピアノの世界をさらに広げてください。

●MIDI楽器との接続例	P146
●パソコンとの接続例	P146
●MIDI楽器やパソコンとつなぐと、どんなことができるの	P147
●パソコンとつなぐためのケーブル	P159
●ピアノパートの受信チャンネルを設定する(Piano Rcv Ch)	P148
●受信データに対してピアノの発音タイミングを調整する(Delay In)	P149
●他機器で作成したフロッピー再生時に、 ピアノパートの再生チャンネルを指定する(Import File)	P150
●再生時、ピアノパートを内蔵音源(XG音源)でも発音させる(発音させない) (PianoPart ESBL Out)	P151
●本機の鍵盤演奏やアンサンブルパートをMIDI出力する(MIDI Out)	P152
●鍵盤演奏データの出力内容を設定する(KBD Out)	P154
●スタート/ストップなどのデータを送受信する(Remote Out/In)	P156
●本機の鍵盤部と音源部を切り離す(Local)	P157
●外部MIDI機器やパソコンから送信した曲データを 本機で受信して記録する(MDR：MIDIデータレコーディング)	P158

MIDI 楽器やパソコンとの接続例

●接続例1:MIDIシーケンサーとの接続

本機のコントロールユニットの MIDI OUT 端子とシーケンサーの MIDI IN 端子、およびコントロールユニットの MIDI IN 端子とシーケンサーの MIDI OUT 端子を、それぞれ別売の MIDI ケーブルで接続します。



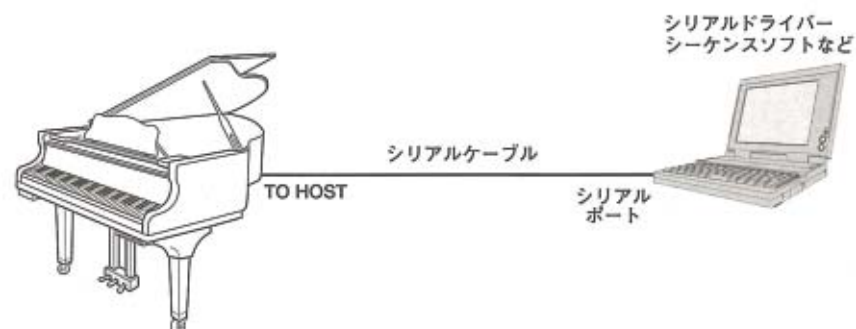
●接続例2:MIDI音源モジュールとの接続

本機のコントロールユニットの MIDI OUT 端子と音源の MIDI IN 端子を別売の MIDI ケーブルで接続します。



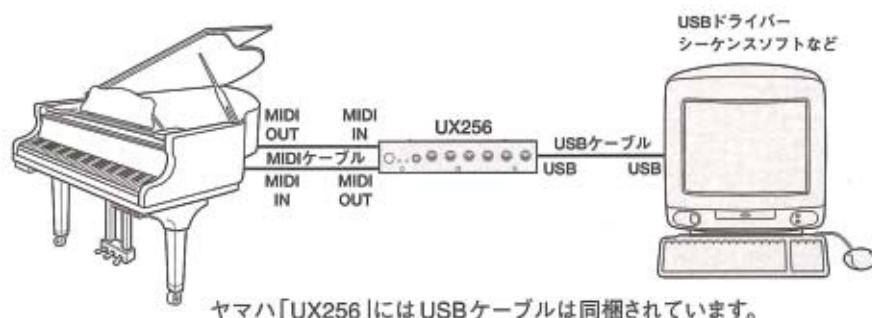
●接続例3:シリアルポート装備のパソコンとの接続

本機のコントロールユニットの TO HOST 端子とパソコンのシリアルポートを別売のシリアルケーブルで接続します。シリアルケーブルは P159 でご紹介しています。



●接続例4:iMac などUSB対応パソコンとの接続

本機とUSB対応パソコンとの接続には別途 USB-MIDI インターフェイス (ヤマハ「UX256」など) が必要です。本機のコントロールユニットの MIDI 端子と USB-MIDI インターフェイスの MIDI 端子を MIDI ケーブルで接続し、USB-MIDI インターフェイスの USB 端子と USB 対応パソコンの USB 端子を USB ケーブルで接続します。



ヤマハ「UX256」にはUSBケーブルは同梱されています。

MIDI 楽器やパソコンとつなぐと、どんなことができるの？

MIDI (ミディ) とは

- MIDI (ミディ) とは “Musical Instrument Digital Interface” の頭文字をとった略称で、電子楽器同士や電子楽器とパソコンなどを接続して、様々な演奏情報をやりとりできる世界統一規格です。
- 世界統一規格ですから、メーカーや楽器の種類が違ってデータをやとりすることができます。

- 「GM」や「XG」は、MIDI 楽器の音源 (音色) をどのように演奏するかを決めた規格で、主に音色の番号や配列順などを規定したものです (P21 参照)。
- 「SMF」や「E-SEQ」は、MIDI 楽器の演奏データをどのように記録・再生するかを決めた規格です (P21 参照)。

ピアノと他の MIDI 楽器をつないでできること

- シーケンサーとの接続 (左ページの接続例1)
シーケンサーは演奏のデータを記録したり再生できる MIDI 楽器です。本機とシーケンサーをつなぐと、あらかじめシーケンサーに記録されている演奏データを本機に送信し、本機の電子音源を鳴らして自動演奏することが可能です。また、自動演奏をバックにして鍵盤演奏を楽しむこともできます。

- 音源モジュールとの接続 (左ページの接続例2)
音源モジュールは多彩な音色を内蔵した MIDI 楽器で、最近では1,000種類以上もの音色を内蔵した機種もあります。本機と音源モジュールをつなぐと、本機の鍵盤を弾き、音源モジュールの多彩な音色でリモート演奏することが可能になります。また、本機の電子音源の音色と音源モジュールの音色を、同時に鳴らすといったこともできます。

ピアノとパソコンをつないでできること

- パソコンとの接続
シリアルポート (通信端子) を装備したパソコンとは、別途シリアルケーブル1本で本機の TO HOST 端子と手軽に接続することができ便利です (左ページの接続例3)。また USB 端子を装備したパソコンとは、別途 USB-MIDI インターフェイスを介して接続します (左ページの接続例4)。

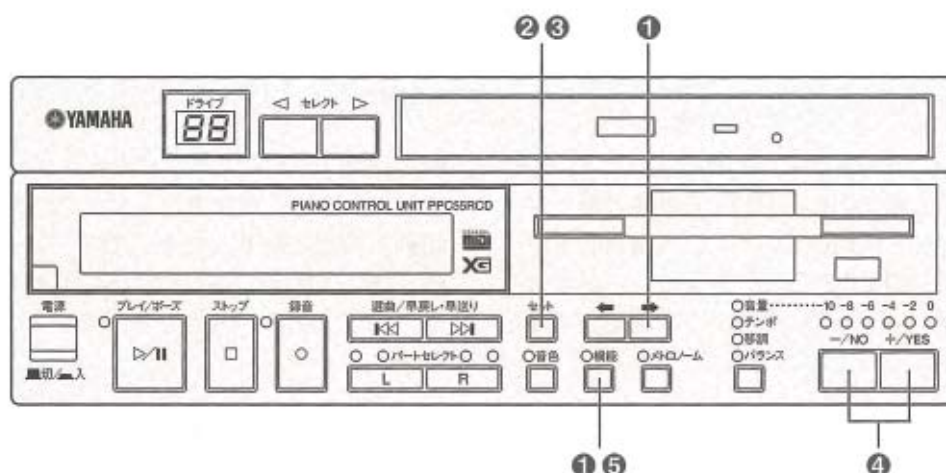
- シーケンスソフトの利用
パソコンと接続すると、パソコン用のシーケンスソフトが利用できます。シーケンスソフトは、演奏データの録音や再生だけでなく、多彩な音符編集機能や楽譜印刷機能も持ったコンピュータ音楽のためのソフトウェア。このシーケンスソフトを使って、本機のピアノ (ピアノ電子音源) と内蔵電子音源 (XG 音源) を多彩にコントロールすることができます。

- 本機で作成した曲をシーケンスソフトで活用
ほとんどのシーケンスソフトは SMF の曲を読み込んで活用することができます。本機で録音した曲をフロッピーに SMF タイプで保存し、パソコンのハードディスクにコピーすれば、パソコンで演奏データを再生してピアノで鳴らすことができます。またシーケンスソフトで変更を加えた曲を、再び本機で使用することもできます。

- パソコンで作成した曲を本機で活用
本機は、SMF (フォーマット0) の曲を直接読み書きできます (フォーマット1は再生のみ)。もし、シーケンスソフト固有の形式で保存されている曲の場合は、ソフト側で SMF のフォーマット0形式に書き出し、フロッピーに保存します。また、市販のデータ集 (フロッピーなど) も、SMF のフォーマット0であれば本機で編集もできます。

ピアノパートの受信チャンネルを設定する

■ Piano Rcv Ch (ピアノ受信チャンネル)



- 「Piano Rcv Ch」は、外部MIDI楽器／パソコンからMIDIデータを入力した際に、ピアノを発音させる（鍵盤演奏させる）受信チャンネルを指定する機能です。
- 初期値は「1」（1チャンネル）です。
- 設定値は以下のとおりです。
- 本機は、ピアノパートをピアノ（サイレント時はピアノ電子音源）で発音させるのが基本です。

##	受信しない（全てXG音源で発音）
1～16	各チャンネルのデータでピアノが発音
1+2	チャンネル1と2のデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
HP	チャンネル1と2の音符データでピアノが発音 チャンネル3のデータでペダルが動く
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音



- 「Piano Rcv Ch」はデータの内容に応じて変更してください。
- 「Piano Rcv Ch」で「Prg」（プログラムチェンジ）を設定すると、ピアノ音色（音色番号1～8番）が使われているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータをピアノパートとして自動設定します。
- カーソルがLパートにある時に「Prg (All)」に設定できます。



- 接続するMIDI楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- [－/NOボタン][+/YESボタン]を同時に押すと、初期値に戻ります。
- 設定は、値を変更するか、リセット（P34参照）をおこなうまで有効です。
- 設定途中でも[機能ボタン]または[ストップボタン]を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。



- 停止中に操作します。

- 1 [機能ボタン]を押してから、[カーソルボタン⇄]を1回押し、「▶MIDI Setup」と表示させます。

*デ・イスク ▶MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

- 2 [セットボタン]を押します。

▶Piano Part *MIDI Out
*Remote *Local

- 3 「▶Piano Part」となっていることを確認して、[セットボタン]を押します。

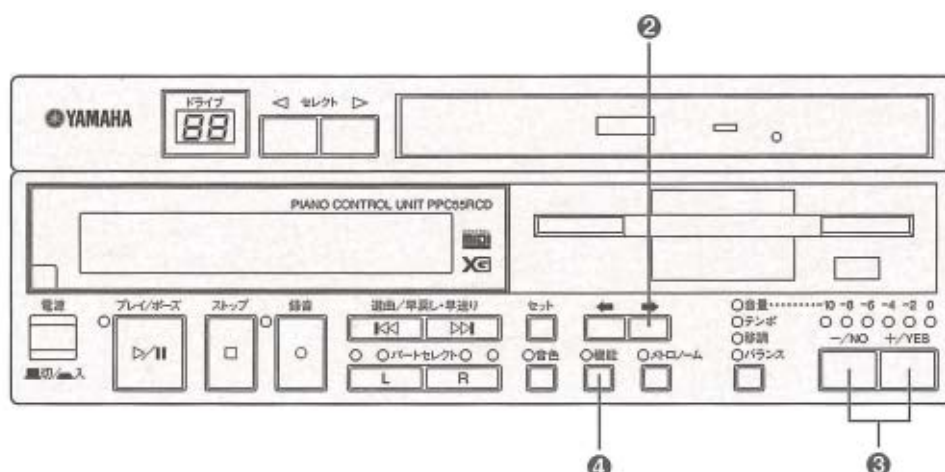
ピアノ受信チャンネル
▶Piano Rcv Ch=01 →
>Delay In (500ms)=ON

- 4 [－/NOボタン][+/YESボタン]を押して、「Piano Rcv Ch」（ピアノ受信チャンネル）を設定します。

- 5 設定が終わったら、[機能ボタン]を押します。

受信データに対してピアノの発音タイミングを調整する

■ Delay In (ディレイ・イン)



●「Delay In」は、外部MIDI楽器／パソコンからMIDIデータを受信した際に、受信データに対しての本機の発音タイミングを調整する機能です。

●初期値は「ON」です。

●設定値は以下のとおりです。

ON	ピアノを正確に発音させます。但し、受信タイミングより0.5秒の遅れが出ます。
OFF	受信タイミングに対して可能な限り速く発音させます。但し、サイレント解除時、ピアノの生音は弱音量では遅れがちになります。



●送信側の音源機器と本機の発音タイミングを合わせたい場合には、本機をサイレント状態（P36参照）にして「Delay In (500ms) = OFF」に設定します。



●接続するMIDI楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

●設定は、値を変更するか、リセット（P34参照）をおこなうまで有効です。

●設定途中でも[機能ボタン]または[ストップボタン]を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。

●[－/NOボタン][＋/YESボタン]を同時に押すと初期値に戻ります。



●停止中に操作します。

① P148の①～③の操作をおこない、下の画面を呼び出します。

```
▶Piano Rcv Ch=01 →
>Delay In(500ms)=ON
```

② [カーソルボタン⇐⇒]を1回押して、「▶Delay In」と表示させます。

```
>Piano Rcv Ch=01 →
▶Delay In(500ms)=ON
```

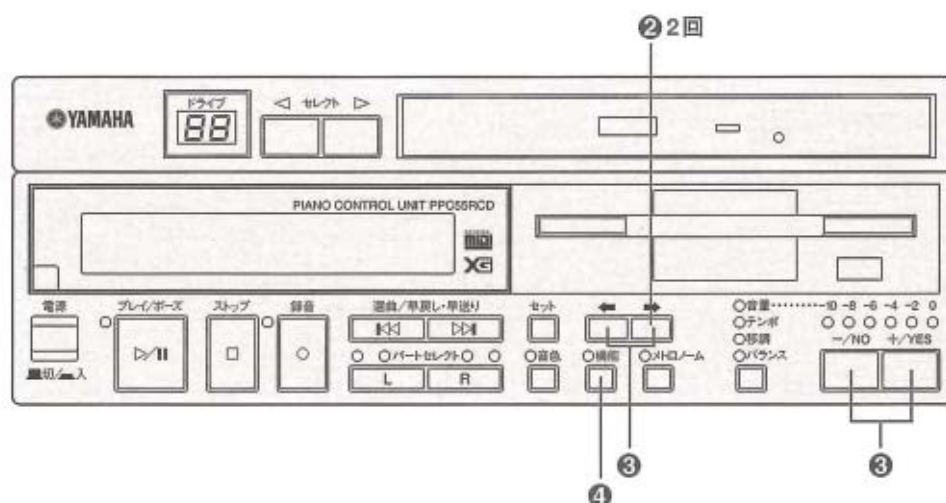
↑
ディレイ・イン

③ [－/NOボタン][＋/YESボタン]を押して、「Delay In」(ディレイ・イン)を設定します。

④ 操作が終わったら、[機能ボタン]を押します。

他機器で作成したフロッピー再生時にピアノパートの再生チャンネルを指定する

■ Import File (インポートファイル)



●「Import File」は、本機やサイレントアンサンブルピアノ、EMR1、DGP-2XG、ピアノプレーヤ以外の機種で記録されたフロッピー（スタンダードMIDIファイルなど）を本機のフロッピードライブで再生する時に、ピアノを発音させる（鍵盤演奏させる）再生チャンネルを指定する機能です。

●初期値は「L=Prg, R=Prg」です。

●設定値は以下のとおりです。

##	受信しない（全てXG音源で発音）
1～16	各チャンネルのデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音



●「Import File」で「Prg」（プログラムチェンジ）を設定すると、ピアノ音色（音色番号1～8番）が使われているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータをピアノパートとして自動設定します。

●カーソルがLパートにある時に「Prg (All)」に設定できます。

●例えば、市販SMFソフトなど Import File に該当するソフトは、ピアノパートがある曲ばかりとは限りません。この場合「L=##, R=##」に設定すれば、オリジナルの音色で再生できるので便利です。



●接続するMIDI楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

●設定は、値を変更するか、リセット（P34 参照）をおこなうまで有効です。

●設定途中でも「機能ボタン」または「ストップボタン」を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。

●「- / NO ボタン」[+ / YES ボタン]を同時に押すと初期値に戻ります。



●停止中に操作します。

① P148の①～③の操作をおこない、下の画面を呼び出します。

```
▶ Piano Rcv Ch=01
> Delay In (500ms)=ON
```

② [カーソルボタン⇐⇒]を2回押して、下の画面を表示させます。

```

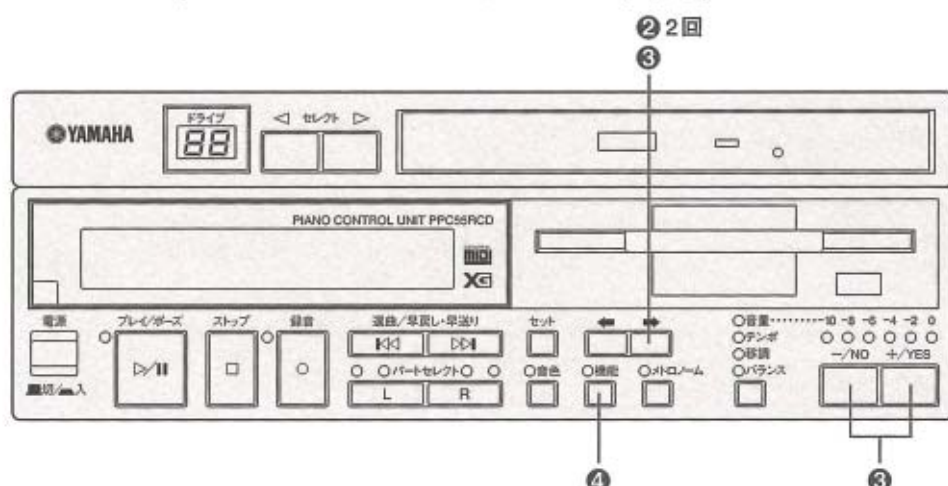
      Lパート  Rパート
      ↓        ↓
← Import File L▶Prg R=Prg
PianoPart ESBL Out=OFF
```

③ [- / NO ボタン][+ / YES ボタン]を押して、Lパート／Rパートの再生チャンネルを設定します。L／Rの移動は[カーソルボタン]でおこないます。

④ 操作が終わったら、「機能ボタン」を押します。

再生時、ピアノパートを内蔵音源 (XG 音源) でも発音させる (発音させない)

■ PianoPart ESBL Out (ピアノパートアンサンブル出力)



●「PianoPart ESBL Out」は、再生時に、ピアノパートを内蔵音源 (XG 音源) でも発音させる／発音させないを設定する機能です。

●初期値は「OFF」です。

●設定値は以下のとおりです。

ON	ピアノパートのデータもアンサンブルパートの一部とみなし、内蔵音源 (XG 音源) に送信する
OFF	ピアノパートのデータは内蔵音源 (XG 音源) に送信しない



●「PianoPart ESBL Out」を ON にすると、全パートを内蔵音源 (XG 音源) で再生することになります (ピアノと内蔵音源が同時に発音します)。

●アンサンブルパートの MIDI 出力のオン／オフは「MIDI Out」(P152) で行います。



●接続する MIDI 楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

●設定は、値を変更するか、リセット (P34 参照) をおこなうまで有効です。

●設定途中でも [機能ボタン] または [ストップボタン] を押すと MIDI セットアップ機能を終了できます。

●[－/NO ボタン] [＋/YES ボタン] を同時に押すと初期値に戻ります。



●停止中に操作します。

① P148 の ①～③ の操作をおこない、下の画面を呼び出します。

```
▶ Piano Rcv Ch=01
> Delay In (500ms)=ON
```

② [カーソルボタン ⇐⇒] を 2 回押して、下の画面を表示させます。

```
← Import File L▶01 R=##
PianoPart ESBL Out=OFF
```

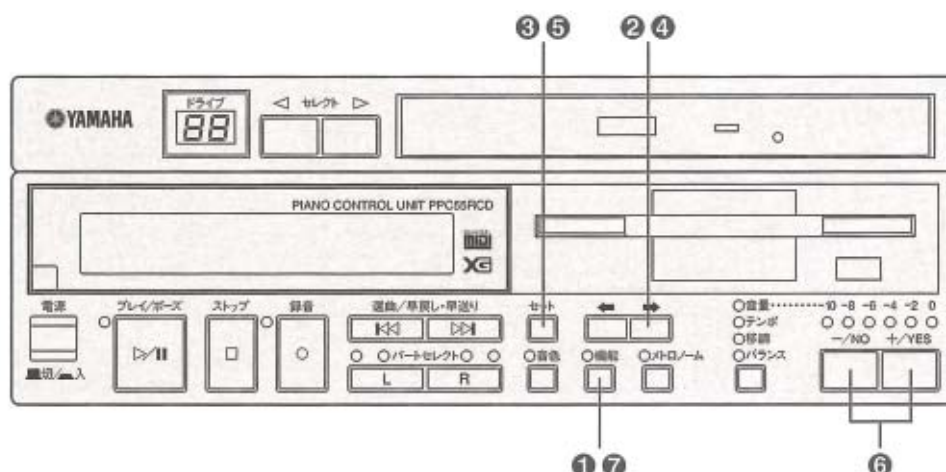
③ [カーソルボタン ⇐⇒] を押してカーソルを下段に移動し、[－/NO ボタン] [＋/YES ボタン] で「PianoPart ESBL Out」を設定します。

```
← Import File L=01 R=##
PianoPart ESBL Out▶OFF
```

④ 操作が終わったら、[機能ボタン] を押します。

本機の鍵盤演奏やアンサンブルパートをMIDI出力するには

■MIDI Out (MIDI 出力データの設定)



- 「MIDI Out」は、MIDI OUT 端子からどのデータを出力するかを指定します。
- 初期値は「KBD Out」です。
- 設定値は以下のとおりです。なお TO HOST 端子からの出力は「KBD Out」固定です。

KBD Out	鍵盤演奏のデータを出力
ESBL Out	アンサンブルパートを出力
Thru Port2	TO HOST 端子からの入力の内、「ポート2」と指定されたデータのみを出力



- 「KBD Out」は、本機をマスターキーボードや入力用キーボードとして、鍵盤演奏のデータを MIDI OUT 端子から出力したい場合に選択します。この場合、カーソルボタンを押して次画面を呼び出し、引き続き送信チャンネルなどを設定します (P154)。
- 「ESBL Out」を選ぶと、本機のディスク再生時のアンサンブルパートまたは MIDI IN / TO HOST 端子から入力されたアンサンブルパート (XG 音源が発音するパート) が、MIDI OUT 端子から出力されます。
- 「Thru Port2」を選んだ時、TO HOST 端子から入力されたデータに Port2 用のものが含まれていると、そのデータのみをそのまま出力します。また「Delay In」(P149) が ON であればディレイをおこないます。



- 接続する MIDI 楽器 / パソコン / パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- 設定は、値を変更するか、リセット (P34 参照) をおこなうまで有効です。
- 設定途中でも「機能ボタン」または「ストップボタン」を押すと MIDI セットアップ機能を終了できます。
- 「- / NO ボタン」[+ / YES ボタン] を同時に押すと初期値に戻ります。



- 停止中に操作します。

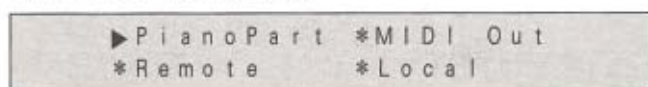
- 1 「機能ボタン」を押します。



- 2 「カーソルボタン」を押し、「▶MIDI Setup」と表示させます。



- 3 「セットボタン」を押します。



- 4 「カーソルボタン」を押し、「▶MIDI Out」と表示させます。



⑤ [セットボタン]を押すと下の表示になります。

● [HOST SELECTスイッチ]=MIDIの場合

▶ M I D I O u t = K B D O u t →

● [HOST SELECTスイッチ]=PC1/PC2/MACの場合

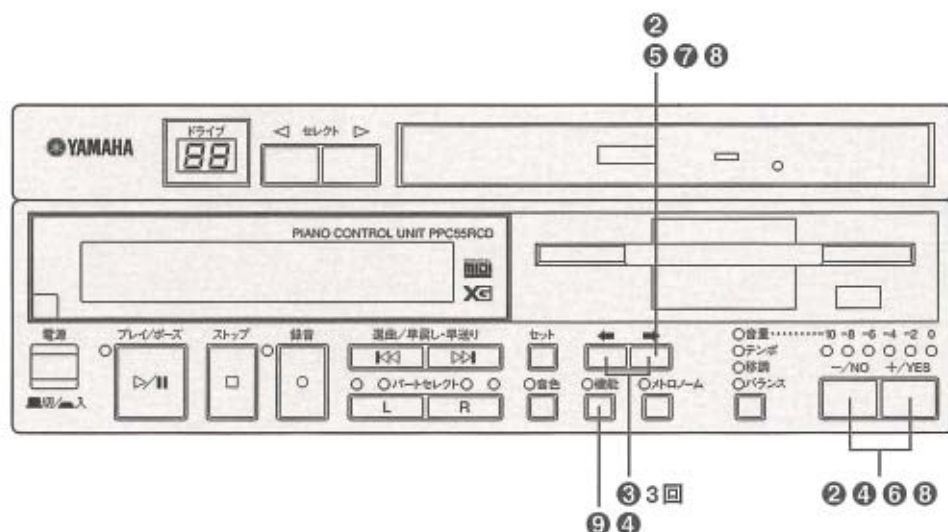
▶ M I D I O u t = K B D O u t
T O H O S T = K B D O u t →

⑥ [－/NOボタン][＋/YESボタン]で、
「MIDI Out」を設定します。

⑦ 操作が終わったら、[機能ボタン]を押します。

鍵盤演奏データ (KBD Out) の出力内容を設定する

- Split (スプリットポイント)
- Out Ch (送信チャンネル)
- Prg (プログラムチェンジ)
- Vol (音量)
- Trans (移調)
- Key Touch (鍵盤演奏データの送信)
- Pedal (ペダルデータの送信)



●ここでは、鍵盤演奏のデータをどういったMIDI OUT端子から出力するかを設定します。

■「Split」(OFF、A-1～C7) ※初期値=OFF
スプリットポイント(音名)を設定すると、音域を2分割し、演奏を2つのチャンネルに分けて送信できます(スプリットポイントはLパートに含まれます)。外部音源の2種類の音色を同時に演奏したい時などに使います(音名はP84参照)。

■「Out Ch」(OFF、1～16、HP) ※初期値=1
鍵盤演奏の送信チャンネルを指定します。「HP」にすると、鍵盤演奏の情報とペダルON/OFFの情報をチャンネル1で送信し、ハーフペダル情報をチャンネル3で送信します。スプリットポイントを設定した場合は、チャンネルごとに送信チャンネルを指定します。

■「Prg」(##、1～128) ※初期値=##
接続したMIDI音源の音色番号を切り替えます(プログラムチェンジ)。ピアノを弾くと切り替えた音色が確認できます。スプリットポイントを設定した場合は、チャンネルごとに設定できます。

■「Vol」(##、1～127) ※初期値=##
接続したMIDI音源の音量を変更します。ピアノを弾くと音量が確認できます。スプリットポイントを設定した場合は、チャンネルごとに設定できます。

■「Trans」(-60～+60) ※初期値=0
本機の演奏を移調してMIDI出力します。半音単位に調整できます。スプリットポイントを設定した場合は、チャンネルごとに設定できます。

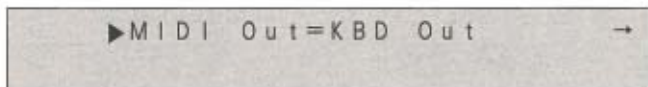
■「Key Touch」(ON、OFF) ※初期値=ON
Key Touchデータを使ってピアノ電子音源の減衰音をコントロールします。このKey Touchの記録には、MIDIコントロールにおける「ポリフォニック・アフタータッチ」のMIDIコードを使用しています。「ON」ではポリフォニック・アフタータッチ信号を用いて鍵盤の動きを送信します。「OFF」ではポリフォニック・アフタータッチ信号を送信しません。

■「Pedal」(CONT、SWITCH) ※初期値=CONT
ペダル情報の出力の仕方を設定します。「CONT」では通常のペダル情報が、「SWITCH」ではペダルON/OFFの情報が出力されます。

●必要な設定が終わった時点で「機能ボタン」を押して終了してください。

●停止中に操作します。

- ① P152-153の①から⑤の操作をおこない、下の画面を呼び出します。



- ② <スプリットポイントを設定する場合>
[カーソルボタン⇄]を何回か押して下の画面を呼び出します。
スプリットポイントを設定する場合は、「▶Split」となっていることを確認し、[－/NOボタン][＋/YESボタン]でスプリットポイントを設定します。
※この時、鍵盤を押して設定することもできます。
スプリットポイントを設定しない場合は③へ。



- 接続するMIDI楽器/パソコン/パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- 設定は、値を変更するか、リセット(P34参照)をおこなうまで有効です。
- 設定途中でも「機能ボタン」または「ストップボタン」を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。
- [－/NOボタン][＋/YESボタン]を同時に押すと初期値に戻ります。



●接続するMIDI楽器/パソコン/パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

●設定は、値を変更するか、リセット(P34参照)をおこなうまで有効です。

●設定途中でも「機能ボタン」または「ストップボタン」を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。

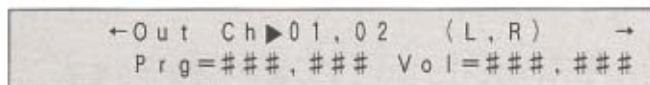
●[－/NOボタン][＋/YESボタン]を同時に押すと初期値に戻ります。

- ③ [カーソルボタン ⇄]を押して下の画面を呼び出します。
スプリットポイントを設定した場合は、
[カーソルボタン ⇄]を3回押して下の画面を呼び出します。

●スプリットポイントを設定していない場合



●スプリットポイントを設定している場合



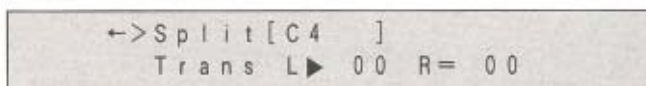
- ④ [カーソルボタン ⇄⇄]で項目を選び、
[－/NOボタン][＋/YESボタン]を押して、
「Out Ch(送信チャンネル)」[Prg(プログラムチェンジ)]
「Vol(音量)」を設定します。
スプリットポイントを設定した場合は、L/Rパート別々に設定します。

- ⑤ [カーソルボタン ⇄]を何回か押して、下の画面を呼び出します。

●スプリットポイントを設定していない場合



●スプリットポイントを設定している場合



- ⑥ [－/NOボタン][＋/YESボタン]を押して、「Trans
(移調)」を設定します。スプリットポイントを設定した場合は、L/Rパート別々に設定します。

- ⑦ [カーソルボタン ⇄]を何回か押して、下の画面を呼び出します。

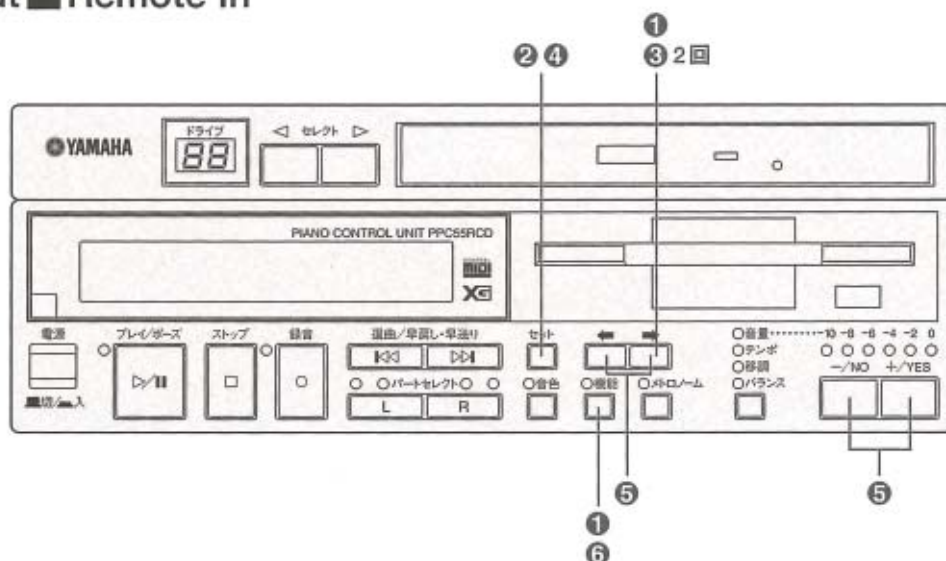


- ⑧ [－/NOボタン][＋/YESボタン]を押して、
「Key Touch(鍵盤演奏の出力)」を設定し、
さらに[カーソルボタン ⇄]を押して「Pedal▶」と表示させ、「Pedal(ペダル情報の出力)」を設定します。

- ⑨ 操作が終わったら、[機能ボタン]を押します。

スタート／ストップなどのデータを送受信する

■ Remote Out ■ Remote In



●「Remote Out」は、MIDIシステムリアルタイムメッセージの送信をオン／オフします。初期値は「OFF」です。

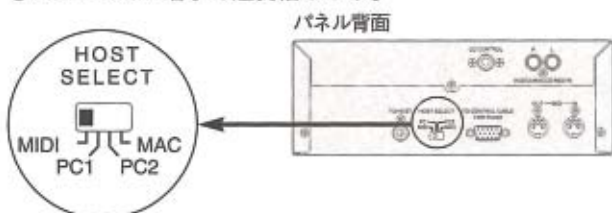
ON	スタート(演奏開始)、ストップ、コンティニュースタート(一時停止からの演奏再開)、ソングポジション(曲中の位置)、ソングセレクト(選曲)、タイミングクロックを送信する
OFF	上記のデータを送信しない

●「Remote In」は、MIDIシステムリアルタイムメッセージの受信をオン／オフします。初期値は「OFF」です。

ON	スタート、ストップ、コンティニュースタート、ソングポジション、ソングセレクトを受信する
OFF	上記のデータを受信しない

[HOST SELECTスイッチ] の位置

- PC1、PC2、MAC = TO HOST 端子で送受信します。
- MIDI = MIDI 端子で送受信します。



- コントロールユニットのフロントパネルの操作で外部シーケンサーなどをコントロールする場合は「Remote Out」をONにします。
- 外部シーケンサーなどの操作で本機をコントロールする場合は「Remote In」をONにします。

- MIDIタイミングクロックの受信は行いません。
- 接続するMIDI楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- 設定は、値を変更するか、リセット(P34 参照)をおこなうまで有効です。
- 設定途中でも[機能ボタン]または[ストップボタン]を押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。
- [－/NOボタン][+/YESボタン]を同時に押すと初期値に戻ります。

●停止中に操作します。

- 1 [機能ボタン]を押してから、[カーソルボタン⇄]を1回押し、「▶MIDI Setup」と表示させます。

*デ・イスク ▶MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

- 2 [セットボタン]を押します。

▶PianoPart *MIDI Out
*Remote *Local

- 3 [カーソルボタン⇄]を2回押し、「▶Remote」と表示させます。

*PianoPart *MIDI Out
▶Remote *Local

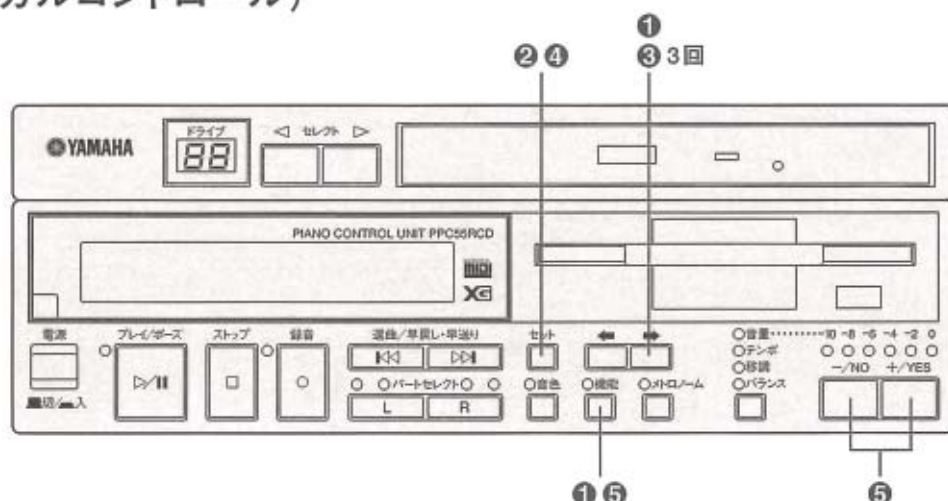
- 4 [セットボタン]を押して下の画面を呼び出します。

▶Remote Out=OFF
>Remote In=OFF

- 5 [カーソルボタン]を押して項目を選び、[－/NOボタン][+/YESボタン]を押して設定します。
- 6 設定が終わったら、[機能ボタン]を押します。

本機の鍵盤部と音源部を切り離す

■ Local (ローカルコントロール)



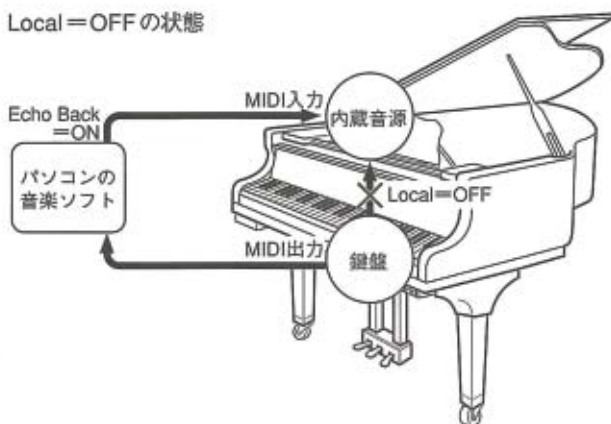
●本機の初期設定は「鍵盤を弾いて内蔵の音源をコントロールして音を出す」という状態になっており、この状態は「Local Control On」と呼ばれます。

●「Local Control Off」にすると、本機の「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても内蔵音源からは音が出なくなります（サイレント時のピアノ電子音も発音されません）。一方演奏情報は Local Control Off でも MIDI 出力されますので、「直接内蔵の音源は鳴らさず、MIDI で他の音源をコントロールしたい」時などは「Local=OFF」に設定します。



●「Local=OFF」では鍵盤と内蔵音源が独立した MIDI 機器のようになります。下図の接続では、パソコンの音楽ソフト上の Echo Back などの設定により、鍵盤を弾いて内蔵音源を発音させることも音楽ソフトからの内蔵音源のコントロールも可能です。

Local=OFF の状態



- 設定は、値を変更するか、リセット (P34 参照) をおこなうまで有効です。次回電源投入時には「Local=ON」になります。
- 接続する MIDI 楽器／パソコン／パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- 設定途中でも [機能ボタン] または [ストップボタン] を押すと MIDI セットアップ機能を終了できます。
- [－/NO ボタン] [＋/YES ボタン] を同時に押すと初期値に戻ります。



●停止中に操作します。

- 1 [機能ボタン] を押してから、[カーソルボタン ⇨] を 1 回押し、「▶ MIDI Setup」と表示させます。

*ディスク ▶ MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

- 2 [セットボタン] を押します。

▶ PianoPart *MIDI Out
*Remote *Local

- 3 [カーソルボタン ⇨] を 3 回押し、「▶ Local」と表示させます。

*PianoPart *MIDI Out
*Remote ▶ Local

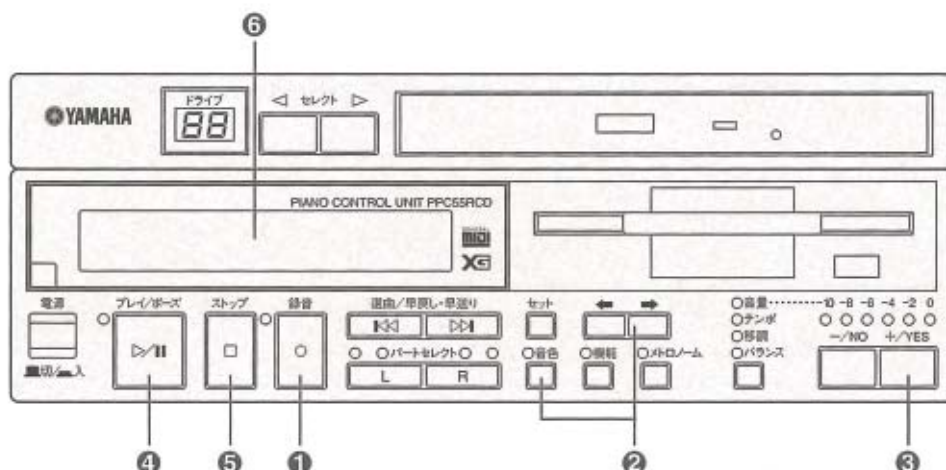
- 4 [セットボタン] を押して下の画面を呼び出します。

▶ Local=ON
Not Memorized!

- 5 [－/NO ボタン] [＋/YES ボタン] を押して設定します。設定が終わったら、[機能ボタン] を押します。

外部MIDI 機器やパソコンから送信した曲データを本機で受信して記録する

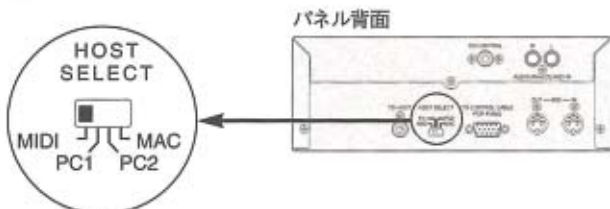
MDR (MIDI データレコーディング)



●MIDI IN 端子に接続した外部MIDI機器またはTO HOST 端子に接続したパソコンから送信した曲データを、本機のメモリディスクやフロッピーに記録できる「MDR (MIDI データレコーディング) 機能」です。

[HOST SELECT スイッチ] の位置

- PC1、PC2、MAC = TO HOST 端子で受信したデータを記録します。
- MIDI = MIDI 端子で受信したデータを記録します。

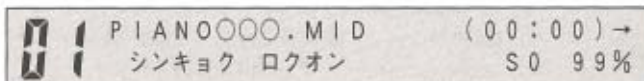


- MDR 機能で記録中に、鍵盤演奏を同時に録音することはできません。
- MDR 機能は、新曲録音の場合のみ使用できます。
- 記録中は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- フロッピーに記録する場合は、フォーマット済みのフロッピー (P48 参照) をあらかじめご用意ください。
- フロッピーに記録している途中で記録をやめたい時は、まず[ストップボタン]を押し、曲名表示になってからフロッピーを取り出してください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーに記録しようとする時、「ディスクプロテクトがかかっています!」と表示されます。あらかじめプロテクトをオフにしてから記録してください (P15 参照)。
- 接続するMIDI 楽器/パソコン/パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。

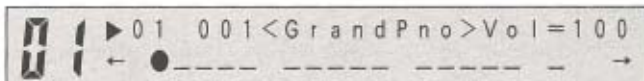


●記録するメモリディスクを選ぶか、フロッピーを挿入してから操作します。

- ① [録音ボタン]を押して、録音待機に入ります。

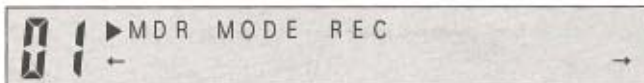


- ② [カーソルボタン]または[音色ボタン]を押して、トラック選択画面を呼び出します。



「一」はそのトラックに何も録音されていないことを表します。
「●」は選択されているトラックを表します。

- ③ [+ / YES ボタン]を押すと、次の画面になります。

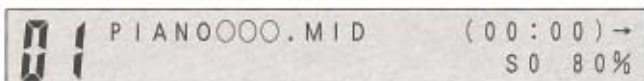


※カーソルボタンで次画面を呼び出すと、ピアノパートの設定が行えます (P98)。

- ④ [プレイ/ポーズボタン]を押して外部機器の演奏をスタートさせると、記録開始。
※外部機器のスタート/ストップにより録音を開始/終了するためには「Remote In = ON」になっている必要があります (P156 参照)。
- ⑤ [ストップボタン]を押すか、「Remote In = ON」の場合は、外部機器の演奏をストップさせると、記録停止。

シッコウチュウ
ディスクトリダサナイデ!

- ⑥ 表示が変わったら、MDR 録音終了です。



パソコンとつなぐためのケーブル

シリアルポート(通信端子)を装備したパソコンと接続する場合

●パソコンの種類により、下記のシリアルケーブルをご用意ください。

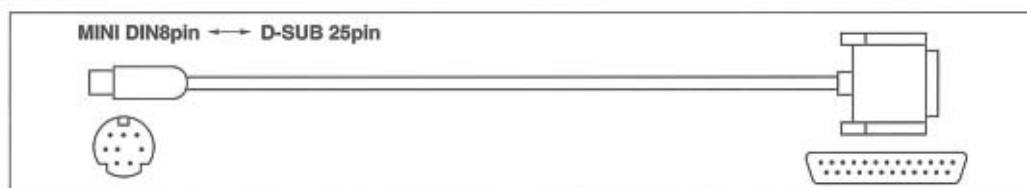
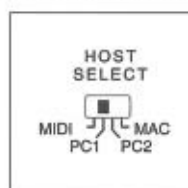
●[HOST SELECTスイッチ]の切り換えやパソコンとの接続ケーブルの抜き差しは、必ず電源オフの状態で行なってください。

●使用するアプリケーションソフトがRS-232Cをサポートしている必要があります。

■NEC PC-9801、9821シリーズとの接続

- 本機の[HOST SELECTスイッチ]を「PC1」にします。
- シリアルケーブル=ミニ DIN 8ピン⇄D-SUB 25ピン(ヤマハCCJ-PC1または同等品)

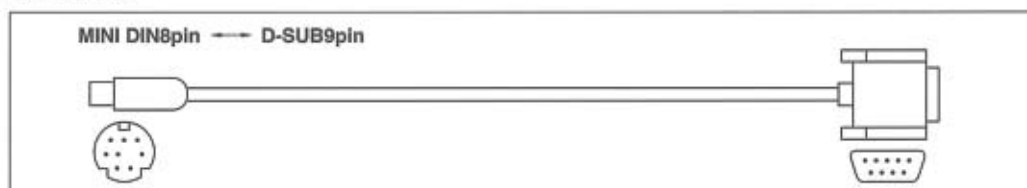
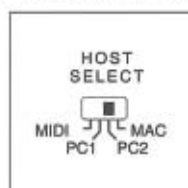
※アプリケーションソフトによっては[HOST SELECTスイッチ]をPC2にセットしないと動作しない場合があります。



■IBM PC/ATおよびその互換機との接続

- 本機の[HOST SELECTスイッチ]を「PC2」にします。
- シリアルケーブル=ミニ DIN 8ピン⇄D-SUB 9ピン(ヤマハCCJ-PC2または同等品)

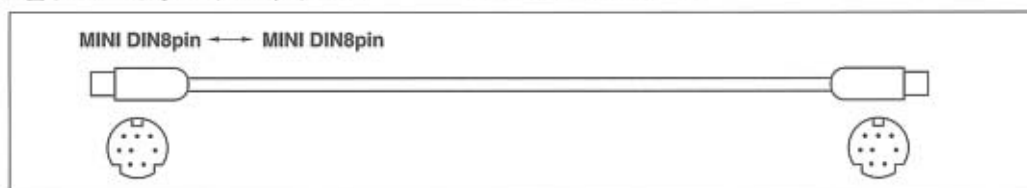
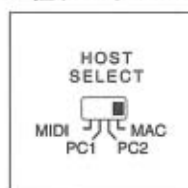
※パソコン側がD-SUB 25ピンの場合、NEC PC-98シリーズ用と同じミニ DIN 8ピン⇄D-SUB 25ピンのケーブルとオス⇄メス変換プラグアダプターをご使用ください。



■Macintosh、Power Macintoshシリーズとの接続

- 本機の[HOST SELECTスイッチ]を「MAC」にします。
- シリアルケーブル=ミニ DIN 8ピン⇄ミニ DIN 8ピン(アップル社システムペリフェラルー8ケーブル、ヤマハCCJ-MACまたは同等品)

※アプリケーションソフト側でMIDIインターフェイスのクロックを1MHzに設定してください。



USB端子を装備したパソコンと接続する場合

●本機はUSB端子を装備したパソコンと直接接続することはできません。

●別途USB-MIDIインターフェイス(ヤマハUX256等)や市販のUSBケーブルなどをご用意ください(P146/接続例4参照)。

Windowsでの使用にあたって

●Windows機のシリアルポートと本機のTO HOST端子を接続してデータのやりとりをするためには、指定のMIDIドライバーソフト(ヤマハCBXドライバ)が必要です。インターネットのヤマハホームページやNIFTY-Serveにアクセスの上、ダウンロードしてご利用ください。

- インターネット=<http://www.yamaha.co.jp/xg/>
- NIFTY-Serve=FMIDIVA (MIDI Vendors Forum) ⇒ 4:データライブラリ⇒8:FromヤマハデジタルCBX